

第七 本会々員ハ凶書縦覧所ニ就キ相共ニ研磨修養ヲ怠ラザルベキコト

第八 本会々員ハ無益ノ勸化寄進ハ断ジテ謝絶スベシ

但シ公共慈善ノ事業ト認ムル時ハ団体トシテ応分ノ寄進助力ヲ為スベキコト

第九 本会々員ハ時々集会シテ智徳ニ関スル通俗講話会ヲ開キ或ハ先輩ノ士ヲ招キ有益ノ講演ヲ求ムベキコト

### 第三章 会員

第四条 本会員ハ左ノ通り区別ス

一、正会員 二、名誉会員

第五条 正会員ハ十五歳以上四十歳以下トシ之レヲ左ノ三部ニ分ツ

一 壮年部〔三十六歳以上四十歳以下〕

二 青年部〔二十一歳以上三十五歳以下〕

三 少年部〔十五歳以上二十歳以下〕

第六条 名誉会員ハ正会員ニシテ満期退会シタルモノ及ビ特ニ本会ニ対シテ特別助力セラレ本会長ノ推薦ニ依ル氏ヲ以テス

第七条 山王町在住者ニシテ正会員ノ資格アルモノハ故無く入会ヲ

拒ミ又ハ退会スルコトヲ得ズ

但シ役員会決議ノ上至当ト認メタル以上ハ此ノ限りニアラズ

### 第四章 役員

第八条 本会ハ左ノ役員ヲ設ク

一、会長一名 二、副会長一名

三、幹事二名 四、会計一名

五、部長三名 六、組長若干名

第九条 会長ハ当町在住者ヲ以テ推選ス

第十条 副会長幹事及会計ハ青年部ニ於テ相互選挙セシメ組長ハ各

組ニ於テ選挙スルモノトス

第十一条 部長ハ各部ニ於テ選挙ス場合ニ依リ正副二名ヲ設クルコ

トアルベシ

第十二条 役員ハ総テ名誉職ニシテ当選者ハ正当ノ事由ナク辞任ス

ルコトヲ得ズ

第十三条 役員ノ年限ハ会長ヲ除ク外各一年ニシテ再選スルコトヲ

得

第十四条 会長ハ本会ノ代表者ニシテ本会ニ関スル一切ノ責任及權

能ヲ有スルモノトシ副会長ハ会長ヲ補佐シ会長代理ノ資格アルモノ

トス

第十五条 幹事及ビ会計ハ会長ノ命ヲ受ケ全会ノ会計及ビ庶務ヲ担

任処理シ各々其責ヲ負フモノトス

第十六条 部長ハ各部一切ノ責任ヲ負フモノニシテ組長ハ各組員ノ

進退ヲ管轄シ一切ノ責任ヲ帯ブルモノトス

第十七条 本会役員ハ総テ議決権ヲ有スルモノトス

第五章 集會

第十八条 本会ハ毎年一月定期總會ヲ開キ庶務會計ノ報告ヲ行ヒ併

セテ入會退會ノ式ヲ行フ

但シ會長ニ於テ必要ヲ認ムルカ或ハ役員會ノ決議又ハ會員三十名以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

第十九条 各役員ハ毎月必ラズ一定ノ日集會シ談話會或ハ協議會ヲ

開催スルモノトス

但シ會長ニ於テ必要ヲ認ムル時ハ臨時會ヲ開クコトアルベシ

第二十条 本会役員ハ毎月一回役員會ヲ開クモノトス

但シ會長ニ於テ必要ヲ認ムルカ或ハ役員三名以上ノ請求アル時

ハ臨時會ヲ開クコトアルベシ

第六章 會計

第二十一条 本会々員ハ各自ノ不用品ヲ持參シ売却シ以テ通常經費

ニ充ツルモノトス

但シ場合ニ依リ特ニ金田ヲ徴收スルコトアルベシ

第二十二条 通常經費ノ剩余或ハ本会ニ於テ經營スル事業ノ益金ハ

總テ予備金ニ加入スルモノトス

第二十三条 本会ニ対シ金員或ハ物品ノ寄贈アル時ハ受理シ記録ニ

載シテ永ク芳名ヲ紀念ス

但シ本会ハ之レヲ強フルガ如キ行為ハ斷ジテ有ルベカラズ

第二十四条 本会一切ノ財産ハ總テ會長之レガ管理ノ責ニ任ズ

第七章 賞罰

第二十五条 本會員ニシテ會ノ為メニ尽力シ或ハ模範タル可キ行為アル時ハ感謝狀或ハ金品ヲ賞与シ常ニ特別ノ待遇ヲ付与シ一般會員ハ尊敬ヲ表スルモノトス

員ハ尊敬ヲ表スルモノトス

第二十六条 本会々員ニシテ規約及會則ヲ無視シ風紀ヲ乱シ或ハ破

廉耻ノ行為アルカ又ハ國法ニ觸レタル者ハ退會ヲ命ジ同時ニ一切

ノ社交ヲ斷ツモノトス

但シ悔悛ノ情顯著ナル時ハ再び入會ヲ許スモノトス

第八章 付則

第二十七条 本会則ニ対シ改正ノ必要アル時ハ總員ノ半数以上出席

シ尚出席員數ノ五分ノ四以上ノ賛成者アルニ非ラザレバ變更スル

事ヲ得ズ

第二十八条 細則ハ隨時規定スルモノトス

役員及會員氏名〔大正四年現在〕

会長 卯木 雷太郎

青年組長

小沢 善吉

副会長 中川 良猷

全

川崎 文治

会計 加藤 彌一

全

小出 兼吉

幹事 小出 留吉

全

石井 春吉

全 古部 秀吉

全

大内 保三郎

壯年部長 高橋 幸右衛門

少年部長

高橋 邦之助

青年部長 山口 善吉

同副部長

武藤 政吉

青年組長 清田 吉藏

壯年會員

武藤 作藏

石井 佐吉

大久保 源次郎

北村 春吉

山本 床吉

金子 熊五郎

石井 初五郎

今村 文藏

鈴木 寅吉

海老沢 政一郎

青年會員

石井 七藏

竹内 国吉

鳥海 万吉

坂田 豐吉

豊原 由藏

亀井 吉之助

露木 伴藏

小川 伴之助

鈴木 初五郎

関本 藤吉

西山 光太郎

石井 常吉

小川 柳吉

有藤 專太郎

鈴木 伝吉

鈴木 栄太郎

小川 源次郎

宮代 与吉

石井 一英

金子 丑五郎

飯田 菊次郎

古部 金太郎

小卷 広吉

中沢 浦吉

小島 万吉

有藤 与喜藏

鈴木 福藏

川本 利八

大久保 長吉

中沢 專助

奥野 文藏

佐藤 鉄太郎

西ヶ谷 竹松

加藤 慎三郎

中沢 政吉

坂田 友次郎

遠藤 常吉

大内 国吉

林 梅吉

中沢 鉄藏

相原 米吉

小卷 甚太郎

後藤 喜三郎

小島 三吉

尾上 昇

川崎 八五郎

少年会員

浅井七藏 林 熊吉

鈴木米吉 平井伊三郎

柴田庄吉 竹内梅太郎

山口貞治 東出国吉

石井春吉 大木浦吉

小島嘉三郎 村留吉

小島六藏 齋藤米吉

川村清太郎

(地方改良会書類) (明治四三—大正九年) 大磯町役場蔵)

三〇 足柄上郡共和村視察事項大要

今般本県下ニ於テ相互町村視察ヲ実行セラレ当職其視察員ニ選定致

サレ去ル六日出発県庁指定ノ足柄上郡共和村及南足柄村ノ両村役場

ニ出張視察ヲ為シタル処吏員及ヒ名譽職諸氏ノ共同一致能ク其任ニ

当リ村長助役ヲ補佐シ共ニ自治ヲ講究シツ、アルハ実ニ感服ノ外ナ

ク役場事務ノ一斑ヲ取調ヘタル処事務整理ハ行届キ視察上大ニ参考

トシテ利スル処有之候間取調事項御参考ニ供候ニ付御覽相成度此段

申進候也

明治四拾四年八月拾貳日

町会議員 殿

大磯町長 中川隣之輔

足柄上郡南足柄村視察事項概要

一 位置 一 事務整理ノ狀況

一 沿革 一 村有財産増殖及保管

一 広袤 一 村事業振興ノ狀況

一 区画 一 衛生

一 役場吏員 一 教育

一 人情風俗 一 民業奨励及発達ノ狀況

一 議員選舉 一 民風ノ作興改善ニ関スル各

一 土地 一 般ノ施設及狀況

一 産業概況 一 本村ニ於ケル条例及ヒ規程

一 納税

一 位置

本村ハ足柄上郡ノ西南端ニ位シ東南ハ岡本村ニ接シ東北ハ福沢村

西北ハ北足柄村ニ隣リ西南ハ明神岳ヲ跨シテ足柄下郡仙石原宮城

野ノ両村ニ接ス

一 沿革

本村ハ古ヨリ苅野庄ト称シ足柄上郡ニ属シタリシガ天明明応ノ頃

相模國ヲ三分シ西中東ノ三郡トスルニ當リ西郡ニ屬セシモ後元和寛永年旧ニ復ス其後延享四年ヨリ明治元年迄小田原藩主大久保氏ノ所領ナリシカ〔延享四年以前ハ大森北条大久保阿部稻葉諸氏ノ所轄ニ屬ス〕明治元年四月小田原知事ノ管スル所トナリシカ全四年七月小田原県ニ全年十一月足柄県ニ移リ全九年四月ヨリ神奈川県ノ所屬トナリ

一 広袤

本村ハ東西弐里半南北壹里半ニシテ地勢三方高ク山岳丘陵ヲ以テ繞ラシ東南ノ一面一帯ニ低下シテ田圃遠ク展開ス

一 区画

本村ハ分ケテ九区トス関本区中沼区狩野区飯沢区猿山区雨坪区福泉区弘西寺区荊野区之レナリ

一 役場吏員

村長助役収入役書記四人常設委員五人村医老人ニシテ現村長実方徳三郎氏ハ明治卅九年四月就職以來外交ヲ主トシ助役ハ総テ役場事務ヲ執掌シ議員常設委員等挙ゲテ村長助役ヲ補佐セシヲ以テ村治頗ル円満ニ進行シ居レリ

一 人情風俗

醇朴ニシテ公共心ニ富ミ共同一致ノ美風アリ新事業ノ発表アルヤ

熱心ニ調査講究シテ実行ヲ遂ケ就中青年會員ノ如キ昨年大洪水ノ際ハ協力防禦ノ事ニ當リ又全寮會員ハ学校事業ニ熱心シテ現今学校基本金五千円ヲ蓄積スルニ至リシハ全く全會員ノ努力ニ基クモノナリ

一 議員選舉

選舉人ノ數ハ衆議院議員百九拾七人郡會議員參百廿六人村會議員四百參拾五人也

元來足柄上郡ハ選舉ノ度毎ニ激烈ナル競争運動起リシカ一昨年来議院議員選舉ノ際大檢舉アリシ以來一般ニ其非ヲ悟リタル為メ一致ノ行動ニ傾キタリト云フ

一 土地

土地々目別反別地価左ノ如シ  
田貳百廿九町八反八畝九步 地価金九万七千四百拾四円八拾

五錢

畑百七拾八町一反九步 全 壹万七千五百八拾八円四

錢

宅地拾壹万八百貳拾七坪 全 參万五千參円六拾八錢

雑地千七百廿四町九反貳畝廿步 全 四千七百拾九円貳拾錢

原野千五拾八町九反拾步 全 參百六拾貳円五拾六錢

墓地五町六畝七歩

一 産業概況

主タル農産物ハ穀類ニシテ副産物トシテハ煙草次ハ養蚕ナリ其ノ

種別産額ヲ挙クレハ左ノ如シ

粳米 作付反別貳百六町九反歩

此收穫高四千百參拾八石

糯米 作付反別貳拾貳町九反歩

此收穫高參百參拾六石四斗

陸米 作付反別壹町歩

此收穫高拾石

大麦田作付反別參拾五町五反歩

此收穫高參百九拾石五斗

大麦畑作付反別拾町歩

此收穫高六拾石

裸麥田作付反別七拾參町八反歩

此收穫高六百六拾四石貳斗

小麦田作付反別拾八歩

此收穫高百六拾貳石

小麦畑作付反別百貳拾參町歩

此收穫高貳百七拾壹石四斗

春蚕飼養ノ戸數ハ參百八拾戸掃立枚數ハ參百四拾枚ニシテ收穫量

參百八拾壹石價格金壹万參千九百貳拾円ニ達ス夏秋蚕ノ飼養戸數

ハ參百八拾貳戸掃立枚數ハ貳百拾枚收穫高ハ八拾貳石六斗此價格

貳千六百貳拾円ニ達ス又煙草耕作反別八拾六町六反九畝廿八歩ニ

シテ收穫量八千拾六貫九百目此價格金九千百貳円五錢柑橘反別貳

町歩收穫量六百俵此價格六百六拾円也

一 納税

本村ニ於ケル地租納税人員ハ六百九拾參人地租額六千六百貳拾九

円四拾貳錢所得税人員ハ七拾六人税額六百八拾四円六拾錢醬油税

納税人拾四人税額七百五拾六円三拾八錢売薬税納税人員四人税額

貳拾壹円県税納税人員七百拾參人税額四千九百貳拾壹円卅三錢五

厘村税納税人員六百九拾參人税額六千九百七拾壹円壹錢九厘ナリ

本村ハ一般ニ富裕ト云フ程ニアラズ大字関本ヲ除クノ外ハ皆農本

位ニテ関本ハ農商相等シ旧矢倉沢往還ナルヲ以テ交通頻繁ナリ而

シテ付近村落ノ需給ハ関本ヲ中心トス商業機關トシテハ共給株式

會社〔資本金五万円〕大雄銀行〔資本金拾万円〕ノ二行アリ

本村經濟ハ年々膨脹シツ、アルモ平素村長初メ議員諸氏ハ青

年會員其他ノ団体ニ氣脈ヲ通シ万般ノ件ヲ討議講究スルヲ以テ隨

テ村長ノ信任厚ク誰モ人トシテ異議ヲ唱フルモナク諸税ノ如キモ  
 円満ニ納税ス

一 事務整理ノ狀況

役場員ハ前記ノ如ク村長以下助役収入役各名ト書記四人アリ村  
 長実方徳三郎氏ハ一切ノ事務ヲ執ラズ専ラ外交ニ任シ助役以下ハ  
 事務ヲ分掌シ書記一同能ク助役ノ命ニ從ヒ整理一般ニ行届キ居レ  
 リ

一 村有財産ノ増殖及保管ノ狀況

本村ハ以前村財産ト学校基本財産トシテ積立ヲ為シ居リタルモ中  
 途村財産ヲ積立ツルノ必要ナシトノ議起リ其財産ヲ学校基本財産  
 ニ繰リ入レ現今学校基本財産トシテ金四千九百貳円四錢ナル多額  
 ノ積立テアリ明治四十一年度ヨリ基本財産増殖ノ一法トシテ秋穫  
 ノ際村内一致共同シテ毎年玄米五拾俵内外ノ寄付ヲ成スコトニ決  
 シ以後毎年実行シツ、アリ其寄付方法ノ内容ヲ聞クニ最高玄米參  
 斗四升最低壹升貳合ニシテ其徵集方法ハ南足柄村小学校同窓會員  
 カ期日ヲ定メテ取集メ校長ノ手許ニテ公売法ニ依リ処分スト云フ  
 其売上金ハ共給株式会社ト契約シ年七分ノ利率ヲ以テ定期預金ト  
 シ村長之ヲ保管ス

一 村及小学校基本財産植林

村基本財産林 六拾七町四反七畝九步 天然雜木  
 小学校樹栽林 壹町四畝廿六步

松四千四百本 杉參千本

明治卅八年着手 四拾貳年結了

△村有基本財産

村有山林經常基本金  
 地方改良基金

金壹千円

山林 六拾七町四反七畝九步 保護義會寄付 金參百円

校舍建築準備金 金七百円 青年會基金 金壹百円

全分會基金 金壹百円 神社基金 金五百円

△村有小学校基本財産

山林 壹町四畝廿六步

基本金 金參千六百円

蓄積米積立金 金八百四拾壹円八拾七錢

生徒報恩金 金百拾円拾錢

寄付金其他 金參百五拾円拾七錢

一 村事業振興ノ狀況

現今村事業振興策トシテ特記スヘキモノナシト雖モ徐々ニ村有山  
 林ニ植林ヲ成スニ決定シ居レリ

一 衛生

衛生状態ハ特ニ記スベキ徳ナキモ第一隔離病舎ハ関本ニ第二隔離病舎ハ苧野ニ設ケアリ

一 教育

教育上ノ設備トシテハ尋常小学校ノ外ニ実業補習学校五校アリ本校ヲ小学校内第一分校ヲ狩野区第二分校ヲ猿山第三分校ヲ福沢第四分校ヲ福泉第五分校ヲ苧野ニ設置ス生徒數ハ尋常高等小学校生徒尋常科男三百一十一人女二百八十一人高等科男六十式人女二十人合計六百七十四人ニシテ昨年度ハ就学歩合一ニ不良ナリシヲ以テ郡長自身出張督励シ義務教育ノ完了ヲ告ゲシムル為メ学童保護養會ナルモノヲ設ケ保護救助セシヲ以テ本年度ハ就学歩合百人ニ付女九十八人〇四分男九十九人〇八分ノ成績ヲ得タリ  
補習学校ノ如キハ各分校トモ殆ンド欠席ナク好成绩ヲ挙ゲ居ルハ偏ニ村長校長等ノ熱心指導セルニ基クモノナリ

一 民業奨励及發達ノ状況

本村水田ノ灌漑ハ全部用水ナリ田地ハ孰レモ二毛作ナレバ足柄上郡内ノ一武等地ニ位ス目下耕地整理ノ議起リツ、アレバ近キ將來ニハ其ノ実行ヲ見ルベシ  
又柑橘類ノ植付奨励サレ居ルガ桃ハ廿年以前ハ他町村ニ供給サレツシモ今ハ水蜜桃ニ匹倒セラレテ売行少シ

一 民風作興改善ニ関スル各般ノ施設及狀況

青年會創立以來葬祭ニハ一切酒ヲ用キザルニ決シ若シ犯スモノハ青年會ヨリ相当ノ違約金ヲ徴セラル又青年會員ハ毎夜一同合宿シ酒色ニ耽ル者ニ対シテハ會員互ニ警メ過ナキニ努ム  
尚其他ノ施設方法等ハ青年會員ニ於テ講究シツ、アリ

南足柄小学校基本財産蓄積主意書

明治卅七八年日露ノ戰役ハ実ニ我国空前ノ盛事ニシテ帝國陸海軍ノ威風ト実力トハ是ニ因リテ發揮セラレ東洋ニ於ケル帝國ノ地歩ハ益々強固ヲ加ヘ歐米先進ノ列強モ親シク其光輝ヲ仰キテ帝國ノ精神ヲ典型タラシムルニ至レリ我国既ニ武ヲ以テ声名ヲ宇内ニ轟カス以後益鍊武ノ必要ト共ニ国家富強ノ基礎タル教育ト実業トノ振起興張ニ力ヲ致サザルベカラス是ヲ以テ本村ハ嚮ニハ日露戰役紀念トシテ有志者ノ寄付ニ依リテ山林宅町四畝六歩ヲ購買シテ南足柄小学校基本財産トシテ生徒ヲシテ樹栽及培養ノ任ニ當ラシメ採伐期限ヲ五十年トシテ植樹ノ方法ヲ定メタリ  
尚明治參拾八年度ヨリ同一ノ趣旨ト県會ノ指定トニ準拠シ尋常科並ニ高等科卒業生徒ノ報恩金ヲ徴シ又篤志者ヨリ寄付セラレタル金員ヲ合セテ確實ナル銀行ニ預ケ入レ元利蓄積シ五拾ケ年間利殖セシム



ル事ニ決セリ更ニ四十一年度ヨリ小学校基本財産蓄積規程ニ定メ向拾ケ年間村内有志者ヨリ秋穫際基本財産増殖ノ一法トシテ村内一致共同ノ上毎年玄米五拾俵内外ノ寄付ヲナス事ニ決シ第一回ハ既に結了ス本村小学校ハ村内一般ノ賛同ヲ得テ此計画ヲ実施セリ将来愈其歩ヲ進メハ偉大ナル成功ヲ他日ニ委スヤ必セリ依テ寄付台帳式冊ヲ製シ志冊ハ当村役場ニ志冊ハ当村小学校ニ保存シ篤志者ノ寄付ニ依ル金額氏名ヲ登録シテ其芳名ヲ伝ヘ役場ニ於テハ村長学校ニ於テハ学校長永久<sup>(ニ脱)</sup>レヲ保存スルモノトス

右条項因リ実行候様茲ニ署名捺印候者也

明治四十三年正月吉辰

南足柄小学校基本財産蓄積規程

第一条 本村ハ本条例ノ規程ニヨリ明治四拾壹年度ヨリ明治五拾年

度ニ至ル拾ケ年間小学校基本財産ヲ蓄積ス

第貳条 町村制第八拾壹条第貳項ニ掲クルモノ、他左ノ収入ハ基本

財産トシテ蓄積スルモノトス

一 基本財産ヨリ生スル収入

但四十一年度ヨリ蓄積金ノ利子

二 不要品<sup>(下脱)</sup>私代

三 本村住民中特志ヲ以テ金円米穀等任意寄付スルモノ

第三条 前条第貳項第三項ノ収入金額ノ參百円ニ滿タサルトキハ村

費ヨリ繰入レ參百円ヨリ下ラサル金額トナスベシ

第四条 公債ヲ起ス場合ニ於テハ村民ノ議決ヲ以テ其償還ヲ了スル

迄ノ間第貳条及第三条ノ蓄積ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ

ハ其停止年数ニ応シ第一条ノ蓄積年数ヲ延長ス

第五条 本基本財産ハ第一条ノ期間修了ノ翌年度ヨリ其利子ヲ教育

費ニ充ツルコトヲ得

第六条 基本財産ハ村会ノ議決ニヨリ一ケ年ヲ越ヘサル期間ヲ以テ

確實ナル銀行ニ利子預ケトシ村長ハ預ケ金額相当ノ担保ヲ徴シ其

担保品有価証券ナルトキハ他ノ確實ナル銀行へ保護預ケトナスベ

シ

第七条 基本財産蓄積ノ収支精算ハ毎年度ニ於テ村内ニ公告スベシ

第八条 基本財産トシテ蓄積スベキモノハ総テ予算ニ編入スベシ

但米穀ハ相当價格ヲ以テ売却シ現金ヲ予算ニ編入ス

南足柄村立小学校樹栽地趣意書

明治三拾七年八月六日文部省訓令第七号及全月廿參日神奈川県令第百拾七号ヲ以テ町村立小学校樹栽地ノ実施ヲ督励セララル本村ハ此趣

意ヲ体シ且ツ時恰モ日露戦役中ニ属セシヲ以テ之ヲ紀念セン為メ明治三拾七年十二月樹栽地設定ノ協議ヲナセリ然レトモ本各村区ニ於テハ多少ノ区有不動産アリト雖モ町村制施行ノ際ノ連合村ニ係ルヲ以テ村有トシテ存スルモノナキヤ故ニ是カ地所ノ取得上大ニ困難ヲ來セリ幸ニ本村有志ハ此挙ヲ賛シ特志ヲ以テ別記ノ通り寄付ヲ了セリ依テ村内多額山林所有地ニ就キ有償提供ヲ求メ山林芘町四反貳畝拾六歩ヲ代金四百貳拾圓ヲ以テ買収契約ヲナシ明治四十年十月卅日売買登記ヲ完了セリ是ヨリ先交渉既ニ成レルヲ以テ明治三拾八年卅九年四拾年ノ春期ニ於テ松苗千八百三拾本杉參千七拾本計四千九百本ヲ南足柄小学校同窓会員ノ特志ニヨリテ樹栽シ「明治四拾參年度ニ於テハ七千本ニ達スル予定」小学校児童ハ職員指導ノ下ニ保護手入ヲナシ傍ラ愛林及勤勉ノ思想ヲ涵養シ樹栽ノ成績亦良ニシテ前途大ニ見ル可キモノアリ将来益保護ヲ加ヘテ其実績ヲ奏セシメ尚機ニ臨ミテ一層ノ擴張ヲ遂ケ小学校基本財産ノ大成ヲ期スベキナリ

合段別山林芘町四畝廿六歩

内 訳

南足柄村雨坪字 段別芘反九畝廿貳歩  
柳平七百十一番

全 福泉字 七段五畝歩  
大久保四百三十八番 全

全 所 全 芘反〇四歩  
四百三十九番

右基金成立ノ趣意ヲ体シ確ク実行ヲ期ス尚後ノ当局者此ノ意ヲ継承ス可キモノナリ依テ署名捺印候也

明治四拾三年參月

南足柄村学童保護義金設立趣意

国運ノ振張ト宇内ノ大勢トハ教育ニ勸業ニ兵事ニ衛生ニ益々改良上進ヲ要求スルコト切ナリ就中普通教育ノ普及改進ノ必要ハ日露戦役後義務教育延長ノ勅令ニ依リテ表明セラレ爾來就学督責ニ出席ノ奨励ニ維ト日モ足ラズト雖モ家計困難ニシテ其愛スベキ兒童ノ教育ヲ忽諾ニ付スルニ忍ザルモ家業補助ニ実業見習或ハ自家子守ニ他家奉公ニ遂ニ半途退学ノ止ムナキニ至ルモノナキニアラス生計補助ノ為メニハ所謂背ニ腹ハ代ヘラレズ可憐ノ兒童ヲシテ義務教育ノ完了ヲ告ケシムルヲ得ザルニ至ルモノアリ

是ヲ以テ本村ハ明治四十三年度ヨリ本義会ヲ設立シ別紙規則ニ拠リ毎年度定ムル所ノ予算ニ拠リテ救助シ更ニ明治四十三年度計剩余金中貳百圓村会ノ議決ヲ経テ本基金ニ編入セリ今後特志者ノ寄付又ハ歳計剩余ヲ加ヘ漸次基金ノ増殖ヲ計リ以テ本義会ノ經費ハ基金ノ利子ヲ以テ支弁スルニ足ルノ日ニ達センコトヲ期ス

本義会趣意及規則ノ実行徹底ノ証トシテ関係役員一同左ニ署名捺印

スルモノ也

明治四十四年六月三十日

南足柄村戦役記念小学校基本財産蓄積及管理規程

第一条 本村ハ戦役記念トシテ明治三十九年ヨリ五十年間小学校基本財産ヲ蓄積ス

第二条 本規程ニ依リ蓄積スル財産ハ之ヲ日露戦役記念小学校基本財産ト称ス

第三条 基本財産トシテ蓄積スルモノ左ノ如シ  
一 小学校卒業者ノ特志ニ因ル報恩寄付金  
二 尋常科卒業者 一人 二十銭  
三 高等科卒業者 一人 五十銭

第四条 基本財産ノ蓄積ハ第一条ノ期間内之ヲ停止又ハ廃止スルコトヲ得ズ

第五条 基本財産ハ第一条ノ期間終了翌年度ヨリ其利子ヲ教育費ニ充ツルコトヲ得

第六条 基本財産ハ村会ノ議決ニ依リ一ケ年ヲ超エザル期間ヲ以テ

確定ナル銀行ニ利子預ケト為シ又ハ郵便為替貯金管理所へ預ケ入

レ若シクハ確定ナル有価証券ヲ購入スルモノトス銀行ニ預ケ入ノ場合ニ於テ村長ハ預ケ金額相当ノ担保ヲ徴シ其担保品有価証券ナルトキハ他ノ確定ナル銀行ニ保護預ケト為スベシ

第七条 基本財産ノ収支ハ預ケ入レノ場合ヲ除ク外総テ歳入出予算ニ編入スルモノトス

足柄上郡共和村視察事項概要

一 位置

足柄上郡ノ西端ニアリテ東南ハ川村北ハ三保村ニ接シ西ハ酒匂川ヲ隔テ北足柄村ニ接シ西北ハ川西村ニ接続ス

一 沿革

本村ハ町村制施行前ハ皆瀬川村都夫良野村ニケ村ニシテ明治廿参年自治制施行ト同時ニ共和村トナル其当時村長ハ井上七三氏ニシテ明治参拾壹年現村長瀬戸駒吉氏就職引続キ勤続セリ

一 広袤 南北参拾丁 東西貳拾五丁

一 地勢ハ四方皆山嶽ニシテ平坦ノ地トシテハ至リテ少ナク道路ハ総テ坂路ニシテ山腹ニ点在セル茅舎ハ一部落ヲナシ全村合シテ十部落アリ

一 戸口 戸数ハ全戸百参拾五戸人口八百五拾四人此内訳男四百五

拾參人女四百〇老人ナリ本籍計九百四人此内訳男四百八拾參人女四百貳拾老人其内職業ヲ區別セハ農百人工廿四人商貳人ナリトス

一 役場吏員 現村長瀬戸駒吉氏ト助役岩本房吉氏ノ兩人收入役ハ村長兼任ニシテ書記老人モナシ助役岩本氏ハ名義丈ニテ出勤セズ臨時出来事ノ生シタル際又ハ村長他出ノ場合ニ出勤スル位ニシテ総テ村長老人ニテ執務セリ元來本村少数ヨリ成立シタル村ナレバ村民能ク相和合シ一村恰モ一家ノ如ク吉凶禍福ヲ共ニシ人情風俗ハ至ツテ醇朴ニシテ協同力ニ富ミ道路ノ修繕其他ノ事業ニ於テハ其部落自身ニテ為スノ習慣ニテ村役場ニ於テ指図ヲナスコトナシト云フ

一 議員選舉 党派ノ關係ナク從ツテ選舉ニ於テ一致シ分離スルコトナク予選ノ候補者ハ必ラズ當選スト云フ

一 土地 地目別反別地価左ノ如シ

- 田 九町九段八畝廿九步
- 畑 六拾七町一段廿五步
- 山林原野 百拾五町參段參畝廿八步
- 宅地 五町五段貳畝廿步

一 産業概況

主要産物ハ薪炭類ニシテ副産物トシテハ養蚕ナリ其種別産額ヲ挙

クレハ左ノ如シ

- 一 薪 炭 価格金六千五百円
- 一 ミツマタ 金五百六拾円
- 一 竹 金四百貳拾円
- 一 養 蚕 金貳千六百拾円
- 一 米 産額百六拾石
- 一 大 麦 全 貳百四拾石
- 一 納 税 本村ニ於ケル地租納税人員ハ貳百五拾參人所得税ハ拾人營業税ハ貳人ナリ

一 村ノ資力經濟

本村ハ寒村僻地ナレハ來往スルモノ至リテ少ナク土地ハ豊富ニアラザルモ著敷貧富ノ差少ナク本村經濟モ年々老割以上ノ増加ナルモ唯老人ノ苦情ナク円満ニ納税ス

一 明治四十四年度歳入歳出予算〔大要〕

- 歳入 金壹千四百八拾七円五拾四錢
- 歳出 金壹千四百八拾七円五拾四錢

歳 入

金九拾八円參拾五錢 財産ヨリ生スル收入

金五円	使用料及手数料
金拾円	雑 収 入
金五円	前年度繰越金
金壹円九拾壹錢	県補助金
金四円五拾錢	寄 付 金
金貳円	国庫交付金
金拾円	県交付金
金壹千參百五拾円七拾八錢	村 税
計金壹千四百八拾七円五拾四錢	
歲 出	
金四百七拾參円	役 場 費
金貳拾七円六拾錢	会 議 費
金七百貳拾參円參拾貳錢	教 育 費
金九円八拾錢	衛 生 費
金三拾六円參拾錢	諸税及負担
金百九拾円	財産及管理費
金五円	雜 支 出
金貳拾貳円五拾壹錢七厘	予 備 費
計金壹千四百八拾七円五拾四錢	

一 事務整理ノ狀況

役場吏員ハ前記ノ如ク村長一人ニテ自カラ各事務ヲ取扱ヒ全戸數百參拾六戸ノ少數ナルヲ以テ事務モ至リテ閑散ニテ諸帳簿ノ如キ戸籍簿貳冊ヲ有スル丈ニテ他ノ諸帳簿ハ皆壹冊ニテ足レリ仮令少數ナル諸帳ナルモ村長一人ニテ万端ノ事項ヲ取扱フハ容易ナラサルモ三拾壹年以來勤続ノ村長ナレハ事務ニハ精通シ且ツ勤勉家ナルヲ以テナリ斯ク整理行届キアルニ名譽職名簿ノ調製ナキハ遺憾ナリ

一 本村ニ於ケル条例規程中重ナルモノヲ挙クレハ左ノ如シ

一 反別割

二 基本財産蓄積条例

三 督促手数料条例

一 徴収ノ方法及狀況

税金徴収ニ付テハ明治廿六年頃迄ハ其部落内ノ納税者ノ人名ヲ連記シ部落組長ニ告知セシガ廿七年ヨリ正式ノ納税告知書ヲ発シタルモ切符ハ一纏メニ其部落組長ニ配付シ組長ハ部落内ニ納税額ヲ告ケ組長ハ取纏メ期日前ニ完納セリ村長職以來県税ニ於テ金拾五錢ノ滞納者ヲ出タシタル丈ニテ〔納税本人期日前ニ逃亡セリ〕他ニ一人モナシト云フ

一 財産増殖及保管ノ状況

基本財産トシテハ明治貳拾七年以前ハ更ニ積立テナク廿七八年日清戦役ノ際紀念トシテ公債募集ニ応シ基本財産トシテ積立テタルヲ始メトシ廿九年度ヨリ歳入歳出精算ノ残額ヲ基本財産ニ編入スルノ決議ヲ為シ卅六年九月十九日基本財産蓄積条例ヲ設ケタリ

一 村基本財産 現金千貳百三拾九円三拾五銭

二 公債 六百五拾円

三 村基本金 山林五町貳反三セ拾五歩

四 学校基本財産 現金拾七円六拾六銭

〔現金ハ川村銀行ニ定期預金公債ハ村長之ヲ保管ス〕

五 学校敷地 八畝歩

六 病舎 貳反三畝廿九歩

皆瀬川共有林貳百參拾壹町貳反參畝拾四歩原野四拾八町一反七畝歩此内山林五町貳反三畝拾歩ハ村有財産ノ内へ無償譲与ヲ受ケ本年四町歩余殖林ヲ有セリ都夫良野共有山林九反貳畝七歩原野五反貳畝七歩ハ皆瀬川ノ例ニ倣ヒ本年度ニ於テ無償譲与ヲナスト云フ

一 土木衛生教育勸業杯ハ特筆ス(ノ脱)キ事項ナシ本村視察中最モ感シタルハ戸籍事務ノ内出生又ハ戸籍上ニ異動ヲ生シタル際ニ左記ノ通り伝票ノ如キモノニ記入ヲナシ其伝票ヲ年度別ニシ又月毎ニ仕訳

ケ男女ノ區別ヲ為ス該伝票ハ戸籍ノ統計表ヲ作成各徴兵壯丁者ヲ取調フル最モ便方ナリト云フ

参 寸

式 寸

摘要	無		配偶者	戸主ノ氏名	籍本
	男又女	氏名			
	生年月日	氏名			

共和村条例

第一条 本村内宅郡ノ特有ニ係ル財産及營造物ニ関スル事務ノ為メ

左ノ式区ニ区会ヲ設ケ

一 皆瀬川 二 都夫良野

第三條 区會議員ノ定員ハ各区八人トス

第三條 区内ニ住居スル村公民ハ総テ選挙権ヲ有ス但シ其公民権ヲ

停止セラル、モノ及町村制第九條第三項ノ場合ニ当ル者ハ此限り

ニアラズ内国人ニシテ公民権ヲ有シ其区ニ於テ直接村税ヲ納ムル

モノ其額区内ニ住スル公民ノ其区ニ於テ最多ク納税スル三名ノ中ノ一人ヨリモ多キトキハ区内ニ住スル公民ニ在ラズト雖モ選舉權ヲ有ス但シ公民權ヲ停止セララル、モノ及ヒ町村制第九条第三項ノ場合ニ当ルモノハ此限ニ在ラズ法律ニ從テ設立シタル会社其他法人ニシテ前記ノ場合ニ当ルトキモ亦同シ

第四条 選挙人ハ等級ヲ分タサルモノトス

第五条 区會議員タルコトヲ得ヘキモノハ村會議員ノ被選權ヲ有シ

其区ニ住居スルモノニ限ル

第六条 区會議員ハ名譽職トス

第七条 第三条乃至第六条ノ外町村会ノ組織及ヒ選挙並職務權限及処務規程ニシテ区会ニ適用シ得ヘキモノハ總テ町村制ノ例ヲ適用ス

共和村基本財産蓄積条例

第一条 本村ハ本条例ノ規定ニ依リ基本財産ヲ蓄積ス蓄積スヘキ金額ハ其基本財産ヨリ生スル一ケ年度ノ収入ヲ以テ本村一ケ年度ノ經常歳出ヲ支ヘ得ル額ニ達スルヲ以テ限度トス

第三条 基本財産ヨリ生スル収入ハ總テ基本財産トシテ蓄積スルモノトス

第三条 前条ノ外毎年度金貳拾円以上ヲ基本財産トシテ蓄積スルモノトス

第四条 公債ヲ起ス場合ニ於テハ村会ノ議決ヲ以テ其公債償還ヲ了スルマテ年度間蓄積ヲ停止ス

第五条 基本財産トシテ蓄積スベキモノハ總テ予算ニ編入スベシ

第六条 基本財産ノ収支精算ハ毎翌年度ニ於テ之ヲ本村会ニ報告スルモノトス

(地方改良会書類) (明治四三—大正九年) 大磯町役場藏

三三 中郡大山町戊申詔書奉読式举行等関係

書類 (一一三)

(一)

第四五四号

通牒

明治四十二年十月廿五日

大山町役場

什長殿

本県訓令第十一号戊申詔書奉読規定第二条ニ基キ来十一月三日ノ天皇節ヲ期シ午前十時ヨリ大山小学校ニ於テ左記 御詔書奉読式施行致シ候条可成一戸一名ツ、ハ參列相成候様無洩一般へ通知方御取斗

相成度候也 但町會議員各教導職什長等ハ參列相成候様致度候

一 戊申詔書奉読式

右御詔書対揚ニ関スル講話等モ可有之候

付記

抑モ戊申詔書御発布ノ聖旨ハ申ス迄モナク戰勝國ノ民衆ニアリテハ  
其余榮ニ驅ラレ動モスレバ或ハ浮華ニ陥リ或ハ奢侈ニ流レ安キヲ以  
テ深く大御心ヲ傷マサセ賜ヒ国力増進ノ基ハ国民自強ノ精神ト其実  
行ニ存シ而モ民資充実ニ由テ之レヲ大成スルコトヲ得ベシトノ義ニ  
外ナラズト確信ス

夫此際ニ於テ互ニ荒怠相戒メ以テ進取経営ノ気性ヲ養ヒ民力ノ伸暢  
ト風氣ノ作興トヲ図リ信義醇厚ノ俗ヲ養ヒ以テ各自ノ品位ヲ進メ地  
方産業ノ發展ヲ謀リ倚ヲ以テ国家ノ進運ヲ扶翼スルハ聖詔ノ御趣意  
ノ万一ヲ対揚スル所以ノ途ナラン歟願クバ各自長ヘニ其効果ヲ挙げ  
ラレンコトヲ

第四八二号

通牒

(二)

明治四十二年十一月十八日

大山町役場

什長殿

本月十三日ノ夜報国会開会ノ節御協議致シ置キ候次第モ有之候処次  
テ十五日付ヲ以テ其筋ヨリ左記ノ通り達セラレ候条各自実行致サレ  
候様無洩一般ヘ須知方可然御取斗相成度候也

左記

満期兵退營及新兵入營ノ際華奢虚飾ノ送迎ヲ廢止スルノ件ニ付テハ  
先年来屢々通牒ニ及ビ尚本年ヨリノ送迎ハ旗幟ヲ樹ツル事ヲ必廢止  
スル旨先般会同ノ節演達ニ及ビ置キ候次第モアリタルニ付一般虚飾  
ノ弊風ヲ除去シ得ベキコト、相信シ候ヘ共若シ一部ノ送迎ニシテ旗  
幟ヲ樹ツルコトアランカ其弊ヤ引テ他ノ町村ニ波及可致候間其旨一  
般人民ニ周知ノ上右旨趣実行方特ニ留意可有之候

追テ在郷軍人ノ団体旗ハ本文ノ限りニ無之候ニ付此段申添ヘ候也

(三)

第二六号

町政上最モ重ク且ツ須要ナルハ納稅事務ノ整理確實ナルト其方法ノ  
宜キヲ得タルニ如クハナシ若シ夫レ一朝之ヲ紛乱センカ町民ノ自治  
政何ニ頼テカ其全キヲ保ツヲ得ンヤ爰ニ戊申御詔書ノ御趣意ヲ奉戴  
シ先ツ其端緒トシテ納稅貯金組合ヲ設ケ以テ本月ヨリ実行セントス



諸君此意ヲ諒セラレ凡ソ左ノ規約ニ基キ各自御実行アランコトヲ乞フ

明治四十三年一月 日

大山町役場

〔回議級〕(明治四〇年) 伊勢原市役所蔵

納税予納貯金組合規約標準

第一条 本規約ハ納税予納貯金規約ト称シ当大山町役場部内ニ居住スル者ヲシテ月掛又ハ日掛方法ニ頼リ其応分ニ貯金セシムルモノトス

三三 戊申大詔紀念高座郡相原村勤儉貯蓄組合等規約(二一六)

第二条 本規約ハ旧来ノ組合部落ヲ以テ一区域トシ毎月若クハ毎日

戊申大詔紀念相原村勤儉貯蓄組合規約

順次隔番方法ニ依リ集金シ銀行又ハ郵便局ヘ預ケ入ル、モノトス

但組合部落ノ情況ニ依リ便宜ノ方法ニ倚ルハ妨ケナシ

第三条 本規約ハ組合部落ノ情況ニ依リ或ル一定ノ時期ニ於テ集金

シ貯金スルコトヲ得ルモノトス此場合ニ於テ集収シタル金額ハ直

ニ第二条ノ手續キヲ履行スルモノトス

第四条 本規約ハ其組合部落ノ情況ニ依リ春夏両大祭ノ時期ニ於テ

適當ノ出金ヲ為シ平素ノ積立金ニ加ヘ各自一ケ年ノ負担納額ニ充

ツベキ金額ヲ貯金スルモノトス

第五条 本規約ハ互ニ私情ヲ捨テ能ク協同一致シテ其積立ヲ励行ス

ルモノトス

但一戸ノ積金月掛ハ毎月五錢以上トシ日掛ハ各自ノ適宜トス

以上

的トス

第二条 本村内ニ一戸ヲ構フルモノハ最寄組合ニ加入スルノ義務アルモノトス

第三条 本組合ハ戊申大詔紀念相原村勤儉貯蓄組合ト称シ左ノ六区ニ分ツ

第一区相原上 第二区相原下 第三区橋本 第四区小山上 第五区小

山下 第六区清兵衛新田

第四条 組員ハ第一条ノ目的ヲ達スル為メ左ノ各項ヲ遵守スル義務アルモノトス

一 老幼男女ノ別ナク時間ヲ徒費セザルコト

- 二 早起夜業ハ必ず励行スルコト
  - 三 職業ニ精励シ副業増進ヲ計ルコト
  - 四 吉凶相慶弔シ艱難相済ヒ交誼ヲ厚クシ親睦ヲ主トスベシ
  - 五 町村自治ノ円満発達ヲ図ルベキコト
  - 六 分度ヲ守リ虚飾ヲ戒ムベキコト
  - 七 公私ノ集会ニハ時間ヲ嚴守スルコト
  - 八 租税公課ノ納期ヲ經過セシメザルコトニ心掛クベキコト
  - 九 衛生ヲ重シ健康ヲ増進スベキコト
  - 十 祝賀式ノ外可成酒ヲ用ヒザルコト
  - 十一 送迎慰勞会ニハ虚飾ヲ避クベキコト
  - 十二 村社ノ祭典以外ニ村内ノ興行ハ村會議員及重立者ノ承認ヲ得タル上挙行スルコト
- 第五條 組合員ハ左ノ種類ノ收入ハ必ず貯蓄スベキモノトス
- 一 相当ノ時機ニ於テ一定ノ時間夜業ヲナシテ得タルモノ
  - 二 春秋兩季屑繭代ノ内若干
  - 三 米麦其他ノ收穫時ニ於テ收穫品ノ内若干
  - 四 紙屑空堀等ノ代金
  - 五 塩水撰ニ依リ節約シ得ベキ麦粃ノ量
  - 六 誕生髮置、袴着、裳着、婚嫁ノ祝賀ヲ紀念セル為メ費用ノ内

若干

- 第六條 組合ノ事務ヲ取扱フ為メ組合長一名ヲ置キ又各区組合員ノ互選ヲ以テ区长一名ヲ置ク組合長ハ区长ノ選挙トス右役員ハ名譽職トシ其任期ハ四ケ年トシ満期ノ前日改選シ補欠ハ直ニ選挙スベシ
- 第七條 積立金ハ毎月一回通帳ヲ添ヘ区长ニ差出スベシ臨時ノ收入ニ属スル分ハ其都度差出シ又都合ニ依リ自ラ預ケ入レタル場合ハ其金高ヲ区长ニ届出ツベシ
- 第八條 区长ハ組合員積立金台帳ヲ作り各口座ニ記入シ毎月末預入高ヲ組合長ニ報告スベシ
- 第九條 組合長ハ貯金台帳ヲ備置キ送付ヲ受ケタル都度之ニ記入シ毎年二回一覽表ヲ作り村長ニ報告スベシ
- 第十條 組合員ハ区长ヲ補佐シ区长ハ組合員ヲ補佐シ常ニ一致協力スベシ
- 第十一條 積立金ハ郵便貯管理所(金脱)ニ預入レ通帳ハ各自之ヲ保管スルモノトス
- 第十二條 積立金ハ左ノ場合ノ外払戻ヲナスコトヲ得ズ
- 一 組合外ニ転居シタルトキ
  - 二 不慮ノ災害ヲ被リタルトキ

三 土地ヲ購入スルトキ

四 其他組合長ニ於テ止ムヲ得ズト認メタルトキ

第十三条 積立金多額ニ上リタルトキハ決議ノ上産業資金融通ノ途

ヲ購スルコトヲ得

第十四条 組合員ニシテ分度ヲ踰ヘ驕者ヲ事トシ業務ヲ曠庶スルモ

ノハ組合長之ヲ戒諭シ努メテ善導シ反省ノ見込ナキトキハ組合員  
ノ決議ニ依リ一切ノ交際ヲ絶ツコトアルベシ

第十五条 各組合ハ区長組合長ニ対シ協議上実費又ハ報酬ヲ付スル

コトヲ得

付 則

第十六条 本規約ノ前ヨリ貯蓄シ居ルモノハ此規約ヲ適用スルモノ

トス

第十七条 本規約ハ明治四十三年一月一日ヨリ施行ス

(二)

相原村納税組合規約准則

第一条 本組合ハ納税ノ義務ヲ全シ併テ納税者各自ノ時間ト手数料

省クヲ以テ目的トス

第二条 本組合ハ何々納税組合ト称シ何大字〔小字〕又ハ戸数凡ソ

十戸内外ヲ以テ区域トス

第三条 本組合区域内ニ於テ新ニ納税義務ノ生ジタルモノアルトキ

ハ組合長本組合ノ旨趣ヲ説明シ加入セシムベシ

第四条 本組合ニ組合長一人ヲ置キ組合員中ヨリ之ヲ選挙スルモノ

トス

第五条 組合長ノ任期ハ二ケ年トシ名誉職トス但シ組合員ノ協議ニ

依リ事務ニ相当スル報酬又ハ実費ノ弁償ヲナスコトヲ得

第六条 組合ハ組合ヲ組織シ組合長ノ選任ヲ了リタルトキハ該規約

(含脱) 及組長氏名ヲ村長ニ報告スベシ但シ更替ノ時モ亦同ジ

第七条 組合長ニ於テ納税ニ関スル令書ヲ受ケタルトキハ直之ヲ組

合員ニ配布シ且ツ納税ノ期日ヲ誤ラザル様注意スベシ

組合員前項ノ配布ヲ受ケタルトキハ速ニ納税ノ準備ヲナシ毎納期

前日迄ニ必ズ組合長ヘ送金スベシ

組合長ハ前項ノ送金ヲ取纏メ之ヲ村役場ヘ納付シ其領収証書ハ各

組合員ニ送付スベシ但シ取纏メタル税金ハ都合ニ依リ組合員ヲシ

テ輪番ニ納付セシムルコトヲ得

第八条 組合員中前項ノ送金ヲ怠ルモノアルトキ組合長ハ懇篤示諭

シ猶送金セザルトキハ之ヲ村長ニ報告スルモノトス

第九条 組合長ハ毎年一月組合總會ヲ開キ前年中ニ於ケル納税ノ成

蹟ヲ報告シ又必要アルトキハ臨時開会スルコトヲ得但シ總會ハ組  
合員三分ノ一以上出席スルニアラザレバ開会スルコトヲ得ズ

第十条 本組合ハ村長ノ監督ヲ受クルモノトス

第十一条 本組合ニ於テ年度内毎期完納シタルトキハ組合長ハ本組

合ニ相当ノ表彰方ヲ村長ニ申請スルモノトス

第十二条 本組合ハ時機ヲ計リ納税準備ノ為メ貯金ノ方法ヲ設クル

モノトス

付 則

第十三条 本規約ハ村長ノ承認ヲ經タル上明治四十三年度ヨリ施行

ス

第十四条 本組合ハ組合總會ニ於テ組合員三分ノ二以上ノ同意ヲ得

且ツ村長ノ承認ヲ經ルニアラザレバ更正スルコトヲ得ズ

第十五条 本規約ノ旨趣ヲ実行スルタメ組合長左ノ署名捺印ス

(三)

明治三十拾五年一月爰ニ共進組ハ生レタリ是即同志ノ集合体ニシテ実  
ニ隣保猶厚ナルコトヲ表セリ云ベシ乍去当組各自十分ノ生計ヲ立  
ツルノ外別ニ共益ヲ計ル目的ナレバ始終創設ノ時ヲ各自ニ於テ忘却  
セサルコトヲ期スベシ然レバ互ニ反目争論等ノ事ナク長日月中欣喜

親蜜ノ中ニ其利益ヲ受タルヲ得ン是規約ノ前文ニ掲ケ一同連署以テ  
紀念ト為ス所以也

明治三十拾五年一月拾五日

高座郡相原村橋本共進組

共進組規約書

第一条 当組ヲ橋本共進組ト称ス

第二条 当組合ハ畑地ヲ借受ケ桑園ト為シ共同力ヲ以テ之ヲ成育セ

シメ毎年之ヲ組合内又ハ組合外へ売却シ此収益ヲ以テ組合ニ報酬

ヲ受クルヲ目的トス

第三条 当組合ハ橋本横町組ニ置キ組頭ノ当選者ニ於テ其事務ヲ扱

フモノトス

第四条 当組合ノ存去期間ハ設立ノ月ヨリ十ヶ年間トス 但シ組合員  
協議ニヨリ

之ヲ延長ス  
ルコトヲ得

第五条 当組合ハ同志者ヲ以テ會員トシ途中ヨリ入ルモノ又ハ退会

セントスルモノアルトキハ組合一同ノ協議ヲ以テ決スルコト

但シ代替リハ相続人ニ引継コト

第六条 当組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組頭一名 世話役三名

第七條 組頭及世話役選舉ハ組合員投票ヲ以テ之ヲ選舉ス其任期ハ各式ケ年トス

第八條 組頭及世話役ハ桑園設計及耕作培養等ニ注意シ臨機組合員ヨリ均一ニ出業セシメ及組合ニ係ル諸収支ヲ処理スル事

第九條 組頭報酬トシテ組合ヨリ一ケ分金<sup>(月配)</sup>壹円ヲ世話役ハ各五拾錢ツ、贈ルコト

但シ毎年總會ノトキ加減スル事ヲ得

第十條 当組合ハ毎年九月一回組合員總會ヲ開クモノトス

但シ其日時場所ハ組頭ヨリ一同へ通知ヲナスコト

第十條 總會ニ於テ組頭ハ其年内ニ係ル出勤簿及諸収入諸支出ノ

帳簿ヲ示シ理由ヲ説明シ収支精算報告ヲナス事

第十二條 当組合ノ利益金ハ左ノ割合ヲ以テ分配ス但シ組合員半数

以上ノ議決ニヨル

一 配当金 何円

一 積立金 何円

第十三條 明治三拾五年一月拾五日当組合規約第十二條利益分配ノ

方法ヲ尚利殖スルヲ目的トシ明治四拾貳年九月廿日總會ニ於テ自

今組頭ノ名儀ヲ以テ左ノ如ク処理スルコトヲ得ルモノトス

一 郵便貯金ヲナス事

一 勸業債券ヲ買入ル事  
一 公債証書ヲ買入ル事

(四)

福生会規約

今般有志者協議之上福生会ヲ設立シ各家經濟基礎ヲ慮リ貯蓄金ヲナシ將來ノ幸福ヲ目的トシ其法方ヲ設クルコト左ニ

第一條 福生会江世話役六名ヲ置キ内老名ヲ専務トス

第二條 福生会年限ハ明治四拾四年九月貳拾九日ヲ満会トス

第三條 会日ハ毎月貳拾八日トス尤二、五、六、十二ノ四ヶ月ヲ除

キ毎年八会トス但シ初会ハ大門組合共同食器置場新築費トシテ掛

捨トシ落札金ハ後会渡シトス

第四條 關數ハ七拾六本トシ掛金ハ実掛ケ壹本ニ付貳拾錢売掛ケハ

金貳拾三錢トス

第五條 掛金ハ会日各自当番へ持參スルコト

第六條 當關者ハ抽籤ヲ以テ式本当トス但シ當籤ハ残り關番ノ前後

ヲ以テ當籤トス

第七條 壹本ノ当リ金額ハ金七円六拾錢トス其後ハ其会數ニ金三錢

ツ、ヲ増

第八条 会場ハ当闖者ノ宅ヲ當番トス

第九条 会場ハ各自番俵ヲ旨トシ世話役ハ当リ闖ヲ確認シ及帳簿整理ヲナシ即時解散スルモノトス

但シ時宜ニヨリ智識交換ノ談ヲナスモ妨ナシ

第十條 當闖者ハ本会ノ満期迄其金額ヲ世話役ニ委託スルモノトス

第十一條 世話役ハ掛金ヲ取扱及ヒ委託セラレタル金額ハ規約貯金

トナシ毎会ノ翌日橋本郵便局江預入ル、モノトス

第十二條 規約貯金通帳ハ各自保管シ必他人江預ケ又ハ貸渡ス事ヲ不得

第十三條 開会当日ハ必通帳ヲ其席江持參シ前條ニ違背セサリシコ

トヲ世話役及各會員ニ示スベシ

第十四條 福生会満会之節ハ會員一同協議ノ上貯金ヲ継続スルカ又ハ或ル事業ニ活用スルモノトス

但シ不得時機ニ至リタルトキハ悉皆貯金ヲ引出シ更ニ解散スルコトヲ得

付則

第十五條 會員ニシテ会期中不得事故出来掛金ヲ中止ノ申込アリタルトキハ是迄掛来リタル金額ハ満会ノ節計算相渡スモノトス但

シ掛金中止ノ申込ニ対シテハ會員過半数事実不得ト認タル后ニアラザレバ是ニ応ズルコトヲ得ズ

第十六條 会期中持闖ヲ他ニ売渡サントスル者ハ必會員中江相談ヲナシ若買受人ナキトキハ會員外へ売渡スモ妨ナシ

明治參拾九年拾壹月起会

世話役	井上 常吉
"	安室 健太郎
"	阿部 仙治郎
"	小林 勘助
"	安室 繁太郎
規約貯金代表者	吉川 唯治郎
事務	"

(五)

勤儉労働貯金組合同規約

第一条 本組合ハ組合員ノ資力ヲ増シ其福祉ヲ増進スル為メ平素業務ニ精勵シ儉素ヲ旨トシ金品ノ貯蓄ヲ実行シ兼テ堅実ナル民風ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二条 本組合ハ第一条ノ旨趣ヲ実行スル為メ相原村字何々ノ内組